



天
文
俗
談
三

= 5
2364
3



門 三五
號 2364
卷 3



談卷之三

目錄

十干十二支之事

三十六禽之事

風角占之事

二六

目錄

早稲田 大學 図書館
昭 30. 2. 23 受
蔵 書

天文俗談卷之三

天文俗談卷之三

十干十二支之事

十干十二支乃事くハクを其の辨を述よ曰く
 いふ事其の説おと繁し其乃大略をかしくん委
 したる愚が秘書に領曆畧註といふものあり其書に
 十干十二支の事ハハクと注せり其書を
 人何れも愚考が茅屋舟なる倉一考を以て
 かりとも秘を河りて何れも一扱先支干の事

元あひはおわるるの多よる戌巳おに属す四季の土旺
 かり方位も中央なり戌巳の陽氣也と生くと冬
 去るの去用かり巳と去の陰氣也と小帰して巳亥秋の
 去用なり戌乃字と去びると去む字なりて茂の字も
 公弟也と去るの多に去る巳と起字の略して公也
 小帰して去ると去むと發と去るの多に去る庚辛ハ金也
 去秋なり方位庚と申酉の間酉戌の間ハ辛なり庚也
 金の陽辛ハ金の陰庚乃字も續とも更しも去む字も去るハ

夏の陽氣と秋の陰は多るゆの多に去る辛也かじ
 とよむ字なり味也ハ金氣乃味辛也なり去て後也
 乃味也乾と氣物の味も陽氣小なりと去る陰氣の
 收歛と去る後金く味と去るなり去る壬癸ハ水
 冬に死す方位壬と亥子の間癸と子丑の間かり壬
 ハ陽癸也陰一陽巳乃胎と去る陰也壬かり姓乃
 意すて任の字也意天の号令此は去ると去る公也用藏也
 陽氣乃下に懷妊し時と揆て萌芽乃去るの多り

たる榮を揆乃字と目し意して伏藏たる陽氣
 時を度るの爲とるなりけし 堯帝乃付小大撓と
 以て陰陽升降乃理と考へて十幹を依り骨
 とし十二支と依りて木を枝とす幹を本めり莖なり
 支を末めり枝なり清陽天と名けて五行彰れ十干立
 濁陰地と名けて八方定り十二子分運移り氣遷り
 て歳くみして盈虚紀と應し十母十二子配合こもに
 妙用し臻るなり子と北方と陰乃位寒水なり十二月

乃支めり陰極を陽生す一陽才復のこ易小ていへし
 地雷復の卦なり一陽下にあり五陰上より子と滋し
 氣物下に滋ふよる孕しよ字此意なり丑を紐乃字
 の略なり十二月の支冬の土用小なり二陽下也すし
 とも四陰の氣尚壯なり陽氣と結紐小なる地澤臨乃
 卦なり寅も演の字を略正月乃支めり東方木小なり
 て是時三陽已よ生し陰陽お半と陽氣の發生は
 人始て見の時なりて事始を述ゆ演の字

ことせし字陽氣乃演ひびりたる故小神こしんを祭まつりかり夏乃
 代よを正ただしかりし歳首さいしゆとするもいかに形かたちり地天泰の
 卦くわ那な里り知ちと正ただ東日とうじつの升のぼり乃時形ときかたちり二月の支中しちゆう也小
 して萬物茂盛まんぶつまいせいのころ此四陽下小生しようがうげうせう一陰と小なり雷
 天大壯てんたいさうの卦くわなり知ちと志しありしとむ字む小て茂まと目め一草
 木き乃なちりりふとる五竹ごちくしてハ寅う知ちと木も小配さいす辰ちんと震しんの
 字じ乃略りやく二月の時陽しやうがう已い小半せうはんととこの盡つくく震しんて長ちやうす春
 乃土用どちゆう小なり五陽下ごがうげうにあり一陰と小なり澤天夫の

卦くわなり己こと四月正陽せいがうして陰いんの造化くわくわ乃用ちゆうと揚ひやう陽がうれ
 故ゆゑ主しゆる萬物ばんぶつ形かたちを尽つくしと生せい長ちやう一陽いちがうの位ゐと小なり乾けん爲な
 天てんの卦くわとす己ことすすすふととと木もと目め一草いちそうなり
 陽がう氣き乃な已いととままとと海うみににここるる午ごとと海うみへへるることこともも志しととも
 多おほすす字じ小せうて長ちやう大たい故ゆゑ系けいるる字じ形かたちり萬物ばんぶつ陽がう氣きももとと海うみり
 皆みな後ごて長ちやう大たい小せうなり一陰いちいん下げとと生せい一いち也なり此こゝより陰いん氣きの主しゆと
 一いちとと形かたちり方位へいばう正南せいなん也なり配さい一いち已い午ごハ火か乃な位ゐ付つをを五
 月げつ復ふ至し小せう一陰いちいん生せいすす小せうなり天風てんぷう姤ごの卦くわとす未

ハ六月土用ニ配す未も味なり物成て味ありいこ
草木の枝葉已り重て繁成す是をりて木の字
小一畫成重と未の字を仰り二陰下小生し四陽上
に仰り天山墜乃卦なり申を七月の辰よて身こも
賊ともむ字なり申酉ハ金丹配す三陰生し三陽
退く也故陽の生くは行とれ也三陰よ收束せり
まろ萬物の身體とく成乾す申の字も指物
を持の象陰気陽気の生くと賊ひ收斂して升發

セー先さるふかこる三陰下に仰り三陽上よあり天地
否乃卦とす酉も金なり西方日入乃時陰陽正中八月
酉の字もほびとて酒字の心なり萬物酒縮し陰
氣收藏して門を閉はむよかこる四陰下に仰り二陽
上よ仰り風地觀とす戌も九月の支なり土用に配す
陽氣いまま既さるこも然まども事をとらひず戌
土の中に潜藏る故も戌字の中小一畫が加ふ戌の字
を仰り五陰下に仰り一陽上よ仰り山地剝とす亥ハ

十月の支なり亥の字なりすこよむ字よて効の字こ
 同ト陰氣萬物を効殺の養よこるまて萬物地下に
 入藏す草木の根葉内小含育乃象アかり六陰陽カ
 一坤爲地トす亥子ハ水ト配す十干と天の五運十
 二支ハ地の六氣カテ五運六氣相會トて医書小云
 司天在泉の主氣客氣每歲遷アかり運氣トカテ
 十干ト歲陽トイハ十二支ト歲陰トイハ又十二律トモ
 十二辰トモ云十干トカテのえとのとむのえとのとむ

一ノ如訓何書にもまにハ和漢正監抄ニノ書よ木の兄
 本の才火の兄火の才トカテハ五ノ五行の陰陽ト兄才トカテ
 たる如訓かりトイテ兄トイテ字トカテハ例ハ井ノ
 左大臣橘の諸兄公乃カテり又十二支ト十二乃獸ト配當
 一鼠牛虎カテト益トカテハ一ノ事トカテ
 一ノ事物紀原ト黄帝子丑十二辰トカテ月ト
 名付ト十二名獸トカテハ日トカテハ一ノ事トカテ
 ても妙トカテハ事トカテハ日トカテハ一ノ事トカテ

乃その一や曰天を二十八宿より一は二十八舎ともいふて
上古黃帝乃時より定らまじ星経又ハ史記天官各代
乃天文志かんどの書にいりくびつゝく乃理を説て其
一宿く此名目を辨一あまごも佳ずるや又ハ日月五星
乃運行を推歩一惣じて天乃周圍小かりしを
いづれのお文符微かり二十八宿を用るを唐土日
本朝鮮琉球等の列々よりりふて天竺西洋等の
國ハ周天の列舎を或は十一象と一又は十二象とす

曰一宇宙乃列々かを唐土の諸書に説のいづく
かハ蛮國も共一統り同にかる處一飢渴寒
暑男女交合等乃をいひも万国を同にきとすつと
みるべ一二十八宿を角九氏房心尾箕の七宿を東
方よ配當一斗牛女虚危室壁乃七宿を北方小配
當一奎婁胃昂畢觜参の七宿を西方に配當一井
鬼柳星張翼軫乃七宿を南方に配當す然れども各
其星ハ東西小周赤道の南北よ列舎して周天の圓

形はかす西南東北小の星ありはつとも一宿とす
 るもの或は二二星と一座と一四星五星十星とく
 けり多きもの二十二と星とかがざりとも一十二の二
 星とかがざりとも一宿持まへの度分の長と二十二度と
 りりり一度弱まで多かざりりり天学にともさ
 けざりりり一三十六禽と一十二と一十二と一
 十二の獸と中とて各二品家物の類とて
 三十六と一たるものなり也乃と十六禽乃品左のふじ

- 鼠 蝙蝠 燕 黄牛 兕牛 水牛 虎 豹 羆 兔 狐 貉 貉 龍 蛟 魚
 蛇 蚓 蛤 蚰 馬 鹿 獐 羊 杆 羚 猿 猴 狢 雞 雉 鳥 狗 狼 豺
 豕 豚 猪

風之事

風をいふものも吹くものも勢ひ益忍んで四月
 づらふものも形もかゝる審とのなり
 理いふものもその説をかゝる曰おの理と説たるも
 天經或問天原發微末書にてハ或問珎等ふけり愚ら天

経或問註解及天学指要一和解一畢也故小多此
とかがず風の理小あつくる餘事をかさん素問よりハ
九宮八風編を立て虚邪正寧乃風と云うく一柄根を試
察するより以て説管窺揖要天官昏等一六四角を候ふ
て其歳の登不登を占ひ或は申の吉凶禍福一知の
類を説く詳なり然れどもその後の毎ふも申をその
由へ療治もおまじはめてふとある程と冬を占ひに占ひ
立春は風を候ふとも糸布小もかうれど此のま

とすふ大商人試みる小天学もせ秘とも貨殖の大
事なまバ知れど志一風を考へ十よ六をその占ひ
と不外なる下流傍利をゆえまもあひあふ人浪華る
と少ら同なりむしは書物に無柱に膠しと傍負り
かゝるを貨殖あせて大なる破滅なりし通俗乃軍書
と小孔明や仲達乃やふ大将達乃天文をみるやにちが
と如く物色ハ天学者小大分の中にも有る一知
り小も如く一物銀もそかへらまかむ尾と柳幸や

中村孝子よりとめがくにこれるるべし天文占よ
名乃何り一梶龜かまども鄙國の大火と占ひ一度
ハ考の毎に何り一りも後年の大火ハ子産氣
知かり一を曾て大火か一考大小お遠むり左傳
乃執とも是し惣して將來を占ふことハ物ふても十
ハ肉あつとつる考何てもぬぬりもこも易の合も
ふ思議不令もふ思議の格ふて陰陽造化の自然よ
るやく風ふまハ考腹よ食事として腹のちを物

と賞て代銀みよまらやうに十が十が通中してちん
地しりの事ハ変てやう地事り十交乃ら二之をづれ
る口からめてハ勝負乃持怙小をなす次々の事ハ天学
者よそハ口すきやあふくはるる魚一或曰く是ハもろと
かりこりめく有年凶年と占ふ風のあくとかをり
かくり多入曰さ何るが管窺揮要考の凡角の占やあ
るるりかきやあ

立春の日天気清明かれハ順りて善陰ハ何早す小

雲雨^{くもあめ}の^も其^よ年^{かど}豊^{ゆたか}年^{とし}なり 丑寅^{うしとん}の^風さ^るま^は田^か交^{かう}
 どの^ふ進^{しん}丁^{てい}未^み申^{しん}の^風さ^るま^は春^{はる}寒^{さむ}く 東^{あづま}風^{かぜ}さ^るま^は
 ハ^順順^{のり}く 未^み申^{しん}の^風さ^るま^は西^{にし}風^{かぜ}さ^るま^は早^{はや}丁^{てい}辰^{ちん}巳^し風^{かぜ}さ^るま^は交^{かう}
 虫^{むし}多^{おほ}く 北^{きた}風^{かぜ}さ^るま^は仇^{あか}仇^{あか}なり 戌^{いせ}亥^{がい}風^{かぜ}さ^るま^は春^{はる}寒^{さむ}く 未^み申^{しん}の^風さ^るま^は
 損^こす南^{みなみ}風^{かぜ}さ^るま^は必^{かならず}早^{はや}丁^{てい}○^ふ月^{げつ}元^{げん}日^{にち}小^こ天^{てん}氣^き清^{せい}明^{めい}少^{すく}
 て雨^{あめ}も^か早^{はや}も^か風^{かぜ}も^か折^をる^をり^とし^と丁^{てい}未^み申^{しん}の^風さ^るま^は田^か交^{かう}
 風^{かぜ}も^か早^{はや}も^か折^をる^をり^とし^と丁^{てい}未^み申^{しん}の^風さ^るま^は田^か交^{かう}
 中^{ちゆう}年^{ねん}く 東^{あづま}を^か洪^{こう}水^{すい}く 東^{あづま}南^{みなみ}を^か民^{たみ}疾^{あや}疫^{えき}わ^りと^し

一^一南^{みなみ}を^か早^{はや}く 一^一西^{にし}南^{みなみ}を^か小^こ早^{はや}く 一^一西^{にし}北^{きた}を^か豆^{まめ}の^か飛^とり^と
 一^一西^{にし}方^{かた}を^か凶^{あつ}く 一^一元^{げん}日^{にち}より^か十二^{じふに}日^{にち}小^こ雨^{あめ}を^か占^う
 一^一て^て其^{その}年^{ねん}十^{じゅう}二^に月^{げつ}の^か晴^は雨^{あめ}を^か占^う
 春^{はる}分^{ぶん}の^か日^{にち}天^{てん}氣^き清^{せい}明^{めい}か^まは^は未^み申^{しん}の^か風^{かぜ}ハ^ハ東^{あづま}を^か順^{のり}
 一^一西^{にし}を^か凶^{あつ}く 一^一辰^{ちん}巳^しを^か諸^{しよ}虫^{ちゆう}死^しす 一^一戌^{いせ}亥^{がい}を^か寒^{さむ}多^{おほ}
 一^一南^{みなみ}を^か五^ご月^{げつ}水^{すい}六^{ろく}月^{げつ}早^{はや}く 一^一北^{きた}を^か豆^{まめ}の^か飛^とり^と
 未^み申^{しん}を^か豆^{まめ}の^か飛^とり^とく 一^一丑^{うし}寅^{とん}を^か米^{こめ}の^か飛^とり^とす
 立^{りつ}夏^かの^か日^{にち}天^{てん}氣^き清^{せい}明^{めい}か^まは^は早^{はや}く 一^一風^{かぜ}ハ^ハ戌^{いせ}亥^{がい}を^か占^う

く南を旱損すく北を雨多しくく未申は
人不安多しくく丑寅を地震疫病く東を討る
らぐ雷多しくく西を復虫多しくく辰巳を有年
ことす

夏至の日天気清明かまハ早とす風ハ北を夏実多
くく丑寅を山水暴ふくく未申を六月雨多
くく西を霖雨く辰巳を八月民病く戌亥と
霜を傷く辰巳を九月大風く南を豊年とす

立秋の日天気清明かまハ物りく未申の凡ハ五穀
丑寅ハ氣候不順西ハ凶東ハ秋雨多く辰巳ハ凶北
雪多く南ハ早成亥ハ米貴
秋分の日天気清明かまハ物更けく風東か物
かく西ハ病多く戌亥ハ盜賊多く辰巳風多く北
ハ冬雪多く南ハ凶丑寅ハ十二月天气陰南ハ土功作
立冬の日天気清明か物りく戌亥風ハ物りく南
ハ疫疾りく丑寅ハ地氣浅未申ハ水食貴く東ハ

凶西も亦凶辰巳ハ氣候不順北も大小霜雪あり

冬至こいの日天氣清明あはれ右同みぎどう東風あづまかぜ少すくなく雷かみなり多おほく南みなみ

産婦うぶづこ多く死し北きたよりよりとす丑寅うしとらも陰かげ多おほく未申みずち

ハ秋あき多おほく雨あめ西にしも雨多あめおほく辰巳たつみハ物傷ものやぶ成なり亥ひハ寒さむ

多おほく一ひととす

古ふる管み窺のぞ揖ひ要ひ天官てんくわん昏等こんとうの八風はつふう占うらなの歌うたあり

天文俗談卷之三終

